

コミュニティスクールだより

令和7年度 第1号

氷室のかぜ

そお小学校学校運営協議会
(事務局 そお小学校)
電話 85-0207

次代を担う子供たちの育成

会長 樋口 正行

学校創立150周年を迎えた昨年、育友会を中心に記念行事が盛大に行われ、大変うれしく思います。

特に、しばらく聞くことのなかった【祖生小唄】が祖生の里に流れ、地域の一体感を感じ、伝承の必要性を改めて感じました。

学校運営協議会は、今年度から2年間16名の委員で《次代を担う子供たちの育成》という共通の目標をもって、学校と地域の橋渡しとしての役目を担って行きたいと思っています。



よーい・ドン 5月18日の祖生地区大運動会

下南 河平 悦司

私が子どもの頃の運動会は中学校の運動場（現：祖生グラウンド）で、祖生中学校、祖生東小学校、祖生西小学校の合同運動会が秋に開催されていました。小学1年生から中学3年生までの大勢の運動会なので、出場競技は少なく、私の一番の思い出は徒競走です。

当時の定番の運動会の曲が流れ、順番を待っている間はドキドキし、緊張と不安、そしてスタートラインに整列すると周りの音が聞こえない状況であったことを今でも記憶に残っています。かん高いピストルの音と同時にスタート。いかに早く第一カーブに入るかで勝負が決まっていました。カーブを走る時は外にはみ出さないよう、腕をグルグル回して走る人もいました。私はカーブでは80%位の力で走り、直線は120%の力を出し切りゴールしました。

今年の運動会は、当日が雨天で、翌日に順延されましたが、農繁期にも関わらず、多くの方々の参加があり、みんな笑顔で、笑い声や拍手は絶えることなく大変盛り上がりしました。

「かけっこ」「徒競走」で子供たちが一生懸命走っている姿を見て、私が子どもの時に緊張しながら走った光景が蘇り、「がんばれー」と力強く応援していました。

今年の競技の内、地域の人が行う「一升けんめい」「綱引き」競技に小学生が入りました。これは、児童が大人の人と一緒にやってみたという意見を受けたそうで、とても楽しい競技となりました。



また、地域競技の繰り出しをしていて、女性に声を掛けると「私は玖珂だけど、出ます」と返事をもらい、とても嬉しくなりました。やっぱり、この祖生地区の運動会は他の所と違い、楽しさがあふれる大会で、園児、小学生、中学生、保護者、地域のいろんな年代の方々が本当に楽しめる運動会で良かったです。

来年もこんな雰囲気の大会になる様、私も協力したいと思いました。ありがとうございました。



泥んこ遊び

小祖生畑 伊藤 桃華

6月16日は、そお小学校の1,2年生が田んぼで自然と触れ合う「泥んこ遊びの日」でした。開始の合図と同時に1番近い畦道から一気に田んぼへと入って行く子供たち。

服のまま豪快に泥まみれになっていく姿は本当に楽しそうで、顔まで泥をつけながら腹這いに泳いだり生き物を探したり、各々がのびのびと自由に楽しんでいる様子でした。私の隣で見ていた大阪育ちの夫は「こんな体験ができるのは特権だね」と笑っていました。しばらくして先生から出た終了の合図に、みんなが「まだ早いよ!」「もう少し遊ばせて!」と抗議する姿はとても微笑ましく、素敵な時間だと改めて感じました。

その後も、洗ってもなかなか落ちない泥をなぜか自慢げに見せ合う子供たちは楽しそうで、最後までみんな笑顔で自然と触れ合えるこの“特権”が今後も続くといいなと思いました。

ようこそ先輩! in そお

今岡 保田 信二

6月18日、そお小学校において、キャリア教育の一環ということで、私が43年間勤めた刑務官という仕事の話をさせていただきました。

小学生に罪を犯してしまった人を収容する世界(刑務所)の話をするに、多少のためらいはありましたが、刑務官という仕事を通して学んだことを伝えることによって、子供たちが、これからの人生を、少しでも、より豊かに歩んでくれたらという思いで引き受けました。内容は、

罪を犯してしまった人の殆どは、自分のしたことを心から悔いて、家族や社会からの信頼を回復するために、一生懸命努力して立ち直ろうとしているということ。

人は、一度、間違い(犯罪)を犯してしまったら、その後の社会で認められないのかということ、絶対にそんなことはなく、人は変わる。人は変われるということを信じて、刑務官は受刑者と向き合っているということ。

また、これから子供たちが社会へ出て、いろんなルールの中で生きていく中で、ルールをきちんと守ることの大切さ。ルールは、あなた方をしる物ではなく、あなた方を守ってくれるものと受け止めること。

最後に、人は、どれだけの才能をもっていて、それに気づいて、その才能を活かし発揮して生きているのか。その才能に気づくためには、いろんなことに興味をもち、挑戦して感性を養っていく。

というような話をしたと思います。

それにしても、「こんな話をして、どうなることか」「予定時間を持て余すのではないか」という私の心配をよそに、子供たちから質問攻めにあいました。中にはかなり難しい質問もあるなど、あっという間に時が経ち、子供たちの単に好奇心だけでなく強い探求心に驚かされました。

ところで、私は、以前から祖生の子は、少数であるがゆえに、何かしらの役割が与えられていて、それをこなして来ているので、一人ひとりの存在感があって、積極性や社会性が養われ、上の学校へ進んでも、また、社会に出ても、逞しく生きている子が多いのではないかと考えていました。

今回、この子たちに接して、改めてそれを強く感じました。

そして、子供たちの屈託のない無邪気な笑顔にふれて、本当に癒された一時を過ごさせていただき、私にとって忘れられない一日となりました。



《編集後記》

みなさまのご協力により、「氷室のかぜ」第1号を無事に発行することができました。ありがとうございました。

今年は梅雨明けも早く、暑い夏が毎日続いています。熱中症に気をつけ、お体十分ご自愛ください。
氷室のかぜ 編集部一同